

5 予防接種後の注意

(1) 一般的注意事項

- ア 接種後 30 分間は、医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応がこの間に起きることがあります。
- イ 接種後、生ワクチン(麻しん風しん混合、麻しん単独、風しん単独、ポリオ、BCG)では4週間、不活化ワクチン(三種混合、二種混合、日本脳炎)では1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ウ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- エ 接種当日は、激しい運動を避けてください。
- オ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は速やかに医師の診察を受けましょう。

(2) 見られることがある症状

予防接種を受けたあと、まれに次のような症状が現れることがあります。特に心配はいりませんが、症状が異常に強い場合や、そのほか異常な症状があった場合には、すみやかに医師の診察を受け、福祉保健センターへご連絡ください。より詳しい副反応については「8 予防接種の対象となる感染症と予防接種による副反応」(8 ページ)をご覧ください。

予防接種名	予防接種後、見られることがある主な症状
BCG	接種後、2～3週間後に泡粒くらいの赤いふくらみができ、その先が黄身を帯びることがあり、その後かさぶたができますが、通常は2～3か月で自然によくなります。
三種混合 二種混合	接種部位が赤くなったり、痛んだり、発熱などの症状が現れることがありますが、通常は2～3日くらいでなくなります。 また、三種混合及び二種混合予防接種後、接種部位が硬結(しこり)することがありますが、2～3か月のうちに自然になくなります。
日本脳炎	発熱、咳嗽、鼻漏、注射部位紅斑などの症状が現れることがあり、ほとんどは接種3日後までにみられます。(詳しくは、15ページも参照)
ポリオ	特別な症状が現れることはほとんどありません。
麻しん風しん 混合	接種後、4～14日の間に発熱、発しん、注射部発赤、鼻漏、咳などの症状が現れることがありますが、通常は数日でなくなります。
麻しん単独	接種後、5～14日の間に発熱、発しんなどの症状が現れることがありますが、通常は数日でなくなります。
風しん単独	ごくまれに接種後、軽い発熱や発しんなどの症状が現れることがありますが、通常は数日でなくなります。

6 予防接種の種類と特徴

予防接種で使うワクチンには、次の3種類があります。

(1) 生ワクチン

対象：麻しん風しん混合ワクチン、麻しん及び風しん単独ワクチン、ポリオワクチン、BCG ワクチン

生ワクチンは、生きた細菌やウイルスの毒性を弱めたもので、これを接種することによってその病気にかかった場合と同じように抵抗力(免疫)が付きます。

接種後から体内で毒性を弱めた細菌やウイルスの増殖が始まることから、それぞれのワクチンの性質に応じて、発熱や発疹の軽い症状が出ることがあります。十分な抵抗力がつくの約1か月が必要です。

(2) 不活化ワクチン

対象：百日せきワクチン、日本脳炎ワクチン

不活化ワクチンは、細菌やウイルスを殺し抵抗力をつくるのに必要な成分を取り出して毒性をなくしてつくったものです。この場合、体内で細菌やウイルスは増殖しないため、数回接種することによって、抵抗力をつけます。一定の間隔で2~3回接種し、最小限必要な抵抗力をつけたあと、約1年後に追加接種をして十分な抵抗力をつけます。

しかし、しばらくすると少しずつ抵抗力が低下してしまいますので、長期に抵抗力を保つためには、それぞれのワクチンの性質に応じて一定の間隔で追加接種を受けることが必要です。

(3) トキソイド

対象：ジフテリアトキソイド、破傷風トキソイド

トキソイドとは、細菌がつくる毒素を取り出し、その毒性をなくしたものです。基本的には不活化ワクチンと同様で、何回かの接種で抵抗力をつけます。

7 予防接種の有効性

予防接種は、その病気にかからないようにすることを目的としていますが、お子さんの体質、そのときの体調などによって抵抗力がつかないこともあります。抵抗力がついたかどうかを知りたい場合には、採血により、血中の抗体を測定する方法もあります(費用は自己負担)。

8 予防接種の対象となる感染症と予防接種による副反応

結核(BCG)

ア 病気の説明

結核菌の感染で起こります。わが国では、約2万5千人の患者が毎年発生しているため、大人から子どもへ感染することも少なくありません。また、結核に対する抵抗力は、お母さんからもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があり、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。生後3か月に達したら、なるべく早くBCG接種を受けましょう。周りに結核患者がいて感染が疑われる場合は、接種を受ける前に福祉保健センターにご相談ください。

なお、生後3か月未満のお子さんで、接種を希望される場合は、事前に福祉保健センター又は接種医療機関にご相談ください。

イ 予防接種の方法

BCGは牛型結核菌を弱毒化してつくったワクチンです。BCGの接種方法は管針法といって、スタンプ方式で上腕の2か所に押し付けて接種します。接種部位は日陰で10分程度乾かします。

◇接種をおすすめする年齢と無料で受けられる年齢

① 接種をおすすめする年齢 (標準の接種年齢/丸数字は接種回数) □ 無料で受けられる年齢 (法律で定められている接種対象年齢)

年 齢	生後																
	3 か 月	6 か 月	9 か 月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	13 歳	14 歳
接 種 名																	
BCG		①															

☆乳幼児は結核に対する抵抗力が弱いので3か月過ぎたらなるべく早く接種することが重要です。

ウ ワクチンの副反応

接種後10日ごろに接種局所に赤いポツポツができ、一部に小さいうみができることがあります。この反応は接種後4週間ごろに最も強くなりますが、その後はかさぶたができて接種後3か月までには治り、小さな傷あとが残るだけになります。これは異常反応ではなく、BCG接種により抵抗力(免疫)がついた証拠です。自然に治るので包帯をしたり、バンソウコウを貼ったりしないでそのまま清潔に保ってください。ただし3か月以上経過しても接種跡がジクジクしているようなときは医師に相談してください。

また、接種した側のわきの下のリンパ節がまれに腫れることがあります。通常はそのまま様子を見ていれば治ります。接種局所がただれたり、大きく腫れたり、化膿して自然に破れて膿が出るのであれば、医師に相談してください。

◇コッホ現象について

お子さんが結核にかかったことがある場合にBCGを接種すると、接種後10日以内に接種局所の発赤、腫れ及び化膿などをきたし、通常2週間～4週間後に消炎、癬痕化し、治癒する一連の反応が起こることがあります。これを「コッホ現象」といいます。この「コッホ現象」と思われる反応がお子さんに見られた場合、ほとんどが家族からの感染と考えられるため、福祉保健センター(16ページ参照)にご連絡ください。

ジフテリア・百日せき・破傷風(DPT)

ア 病気の説明

(ア)ジフテリア(Diphtheria)

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。

1981年に現在使われている三種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風)ワクチンが導入され、現在では患者発生数は年間0～1名程度です。しかし、ジフテリアは感染しても10%程度の人に症状が出るだけで、残りの人は症状が出ない保菌者となり、その人を通じて感染することもあります。

主にのどに感染しますが、鼻にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。発病2～3週間後に菌の出す毒素によって、心筋障害や神経麻痺を起こすことがあるため注意が必要です。

1990年代前半には、三種混合ワクチンの接種率が低下したロシアで流行しました。予防接種を続けていかないと、日本でも再び流行する可能性があります。

(イ)百日せき(Pertussis)

百日せき菌の飛沫感染で起こります。

1948年に百日せきワクチンの接種がはじまって以来、患者数は減少していましたが、平成19年に国内の大学で集団感染が報告されました。

百日せきは普通のかぜのような症状ではじまります。続いて咳がひどくなり、顔をまっ赤にして連続的に咳込むようになります。咳のあと急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出ます。通常、熱は出ません。乳幼児は咳で呼吸ができず、くちびるが青くなったり(チアノーゼ)、けいれんが起きることがあります。乳児では肺炎や脳症などの重い合併症を起こし、命を落とすこともあります。

(ウ)破傷風(Tetanus)

破傷風菌はヒトからヒトへと感染するのではなく、土の中にある菌が傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、口が開かなくなったり、けいれんを起こしたりして、死亡することもあります。患者の半数は本人や周りの方では気づかない程度の軽い傷が原因で感染しています。土の中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。お母さんが抵抗力を持っていれば、出産時に新生児が破傷風にかかるのを防ぐことができます。

イ 予防接種の方法

DPT(ジフテリア・百日せき・破傷風)三種混合ワクチン及びDT(ジフテリア・破傷風)二種混合ワクチンを使用し、以下のとおり接種します。回数が多いので接種漏れに注意しましょう。

(ア)I期初回接種及び追加接種 ※

I期として、生後3か月～90か月未満の間に初回接種3回(20日～56日の間隔をあけて)、追加接種1回(初回接種3回終了後、12か月～18か月を経過した時期)の計4回、三種混合ワクチンを接種します(事情により、接種を急ぐ場合の追加接種は初回接種終了後6か月以上の間隔をあけて行います)。

確実に免疫をつけるためには、決められたとおりに受けることが大切ですが、体調不良等により間隔があいてしまった場合には、初めからやり直さず、所定の回数を接種してください。詳しくは、かかりつけ医に相談しましょう。

◆ 飛沫感染 ◆

ウイルスや細菌が、咳やくしゃみなどで細かい唾液や気道分泌物に包まれて空気中に飛び出し、約1mの範囲で人に感染することです。

※三種混合ワクチンの接種を受ける前に、ジフテリア、百日せき、破傷風にかかった場合

三種混合ワクチンを受ける前にジフテリア、百日せき、破傷風にかかった場合でも、三種混合ワクチンを接種することができます。百日せきにかかったことがあり、ジフテリアと破傷風にかかっていない方で、二種混合ワクチンの接種を希望する場合は、I期として初回接種2回(20日～56日の間隔をあけて)、追加接種1回(初回接種2回終了後、12か月～18か月を経過した時期)の計3回接種します。なお、どちらの接種も定期接種として受けることができます。

(イ) II期接種

II期として11歳～13歳未満の間に1回、二種混合ワクチンを接種します。

◇接種をおすすめする年齢と無料で受けられる年齢

① 接種をおすすめする年齢 (標準の接種年齢/丸数字は接種回数) □ 無料で受けられる年齢 (法律で定められている接種対象年齢)

年 齢	生後																
	3 か 月	6 か 月	9 か 月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	13 歳	14 歳
三種混合																	
I 期初回		③															
I 期追加					①												
二種混合																	
II 期														①			

ウ ワクチンの副反応

1981年に百日せきワクチンが改良されて以来、副反応の少ないワクチンになっています。主に接種部位の発赤、腫脹(はれ)、硬結(しこり)などの局所反応となります。接種後、7日目までに認められます。

なお、硬結(しこり)は少しずつ小さくなりますが、数か月残ることがあります。特に過敏な子どもで肘を超えて上腕全体が腫れた例が少数ありますが、これも湿布などで軽くなっています。通常高熱は出ませんが、接種後24時間以内に37.5℃以上になった例がごくまれにみられます。

ポリオ(Polio 急性灰白髄炎)

ア 病気の説明

「小児麻痺」とも呼ばれ、わが国でも1960年代までは流行を繰り返していましたが、現在では予防接種の効果で、国内での自然感染は報告されていません。しかし、現在でもインド、アフリカなどではポリオの流行があることから、これらの地域で日本人がポリオに感染したり、日本にポリオウイルスが入ってくる可能性があります。

ポリオウイルスは、ヒトからヒトへ感染します。感染した人の便中に排泄されたウイルスが口から入り、のど又は腸に感染します。感染したウイルスは、3～35日間(平均7～14日間)腸の中で増えます。しかし、ほとんどの場合は症状が出ず、終生免疫を獲得します。

症状が出る場合、ウイルスが血液を介して脳・脊髄へ感染し、麻痺を起こすことがあります。ポリオウイルスに感染すると100人中5～10人はかぜ様の症状がみられ、発熱し、続いて頭痛、嘔吐が現れています。また、感染した人の中で約1,000人に1人の確率で麻痺を起こすことがあります。一部の人には麻痺が永久に残ります。呼吸困難により死亡することもあります。

◆ 終生免疫 ◆

ウイルスや細菌に感染すると体の中に免疫(抗体)ができます。これはそのウイルスや細菌などの病原菌に対する抵抗力ですが、その病原体に感染した記憶が体の中に一生にわたって残り、その病気にかからないですむ状態を言います。